

Ⅲ水源林保全・再生計画の試行的実施

1 民有林における試行的実施

(1) スギ・ヒノキ林の除間伐作業

強間伐

適地を選定し、森林所有者と日田郡森林組合を通して協議し合意したうえで、一般的には林家が敬遠する強度の間伐（材積率35%）を実施した。純粋に間伐作業にあたる部分は、森林組合の補助事業で実行し、本事業では、事業対象外の補助的作業、山林境界の確定伐開作業、作業路網計画路線の踏査、伐開、風倒木雪倒木などの支障木伐採などを行った。危険防止に留意したが、補強土壁工の上部及び、ガードレールを棄損する失敗があった。作業工程を徹底的に見直し改善してその後は安全に実行できている。この失敗や積雪などのため、間伐事業そのものは予定より遅れることになった。林況調査などは、地元日田林工高校林業科の生徒、林業クラブ員を動員した。専門的技術を要する作業は日田郡森林組合作業班の協力を得た。



スギ人工林の35%強間伐



田来原クヌギ団地作業道路線設計

(2) クヌギ原本林の改良～作業路網計画

田来原クヌギ団地で、クヌギ林の林況調査を行い、面積当たりの本数や材積を生長量を推定し回帰年の基準を20年と定め、輪伐計画を立案した。（クヌギ人工林調査の項、導入候補種クヌギの項参照）老松生産森林組合所有の田来原クヌギ団地の計画立案には、その中心に出現した土捨て場跡地約10Haの裸地をどう活かすかと言うことが大きく関わってくる。田来原は2006年の「田来原新しい森づくり」運動の時点から多様な森づくりに取り組み福岡市民を中心とする森林ボランティアによる植林や下刈作業が、地元と協働で行われてきた。森林の多様化について言えば、これまでに、一般造林としてヤマザクラ、イロハカエデ、イヌエンジュなどが、ボランティア造林では、ブナ、クロガネモチ、クスノキ、ムクノキ、アメリカフウ、ヤマザクラ、ミツマタ、ナンキンハゼ、イロハカエデ、ヤマボウシ、コブシ、ヤマザクラ（オオヤマザクラ）、イチイガシ、センダン、ソメイヨシノ、ユリノキ、ウリハダカエデ、イチイガシ、シラカシ、ナナミノキ、ケヤキ、スダジイ、イチョウ、モチノキ、ハナミズキ、ヤマグル、キハダ、ヤエザクラ、モミ（ウラジロモミ）などが導入されている。

作業路網については、今回調査に止まったが、現在大学との連携で野、森林セラピー～スポーツ医療関連施設の誘致が議論されているので、今後軽スポーツのためのトレッキングコースなどとの共用などを考慮し路線を設計する必要がある。

2 水資源機構所有分における試行的実施

(1) ダム湖畔林の改良・整備基準策定

大山ダム建設所とともにダム湖畔のスギ・ヒノキ人工林について現地踏査を行い、先ず保安林と普通林で除間伐の指針を決定し、各筆各林分ごとに間伐率などを決定した。日田市移管予定の林分については、作業道の開設・皆伐の条件が提示されているが、急傾斜のため物理的に、また景観的に問題が多く、

強間伐にとどめるよう助言した。

(2) ダム湖畔林道下盛土面の植樹



この部分には以下の樹種を混植した。

メタセコイア
オウゴンメタセコイア
モミジバフウ
カツラ
チャンチンモドキ
エノキ
ヤブツバキ
イロハモミジ
ヤマボウシ

(3) 田来原土捨場跡地内、沈砂池付近の植栽樹種提案

基本的には、郷土種の広葉樹を混植して自然林に近い森をつくるが、ケンボナシを点在させて、やや二段林型の森にすることを助言した。植栽した樹種は以下のようなものである。

アカマツ、ツブラジイ、スダジイ、アラカシ、シラカシ、イチイガシ、ウラジログシ、クスノキ、ヤブニッケイ、タブノキ、ヤブツバキ、サザンカ、ユズリハ、モチノキ、ソヨゴ、クロガネモチ、カクレミノ、ヤマグリ、アオハダ、タマミズキ、サワグルミ、アカシデ、イヌシデ、ミズメ、クヌギ、コナラ、ムクノキ、エノキ、ケヤキ、カツラ、ヤマザクラ、ウワミズザクラ、エドヒガン、ネムノキ、トチノキ、ハゼノキ、イタヤカエデ、イロハモミジ、オオモミジ、ケンボナシ、ヤマボウシ、エゴノキ、シオジ、ヤマトアオダモ など

3 上下流交流と協働の森づくり

(1) 講演会

大山ダム水源地域活性化講演会

【開催目的】日田市の市勢政要覧は「人が輝く」「自然との共生」「誇りある歴史」といった三つの柱から編集されています。これだけの自然や文化、歴史に恵まれ、地域住民もそのことに愛着や誇りを持っているにも拘わらず、地域にもうひとつ元気がないのはなぜでしょうか。もしかしたら目を向けるところや、地域活性化の戦略にズレが生じているのかもしれません。

特に地域の自然・文化等の資源を生かした体験プログラムの提供は、観光産業の発展や地域活性化に向けた重要な要素となりうるでしょう。しかし、単に、プログラムだけ整備するだけでは不十分で、そこには継続的な受け入れ態勢の整備や、市場に対するPR・販売のシステムが必要です。

こうしたことから「地域をプロデュース」するという視点に立ち、南信州観光公社の事例からその考え方、方法を学びたいと思います。

国土交通省 水源地域活性化調査・水源林再生事業



—連携による地域づくりの手法を学ぶ—

「山あい自然、文化の都あり」



講師 南信州観光公社

代表取締役社長 高橋 充 先生

【講師プロフィール】昭和43年3月6日北海道札幌市出身。平成4～11年大手旅行代理店の首都圏の教育旅行支店に勤務し、教育旅行部門のセールスを担当。飯田市に平成8年に修学旅行の下見で訪れて以来、毎年数校の修学旅行団を連れて訪れる。平成12年に飯田市に飯田観光協会職員として移住し、平成13年の南信州観光公社設立より支配人として体験型観光の企画・プロモーション・受入コーディネート及び地域連携システムの構築、販売ツールの作成等の業務全般を担う。平成16年同社取締役、平成21年より専務取締役、平成22年12月同社代表取締役社長に就任した。

(社)日本旅行業協会等のセミナー講師、環境省の「エコツーリズム推進アドバイザー」や国土交通省の「水源地域対策アドバイザー」など民間企業や国の要職を歴任する。

開催日時 平成24年3月3日(土) 午後7時より
開催場所 日田市大山地区公民館ホール
受講料 主催者で負担します

主催 NPO法人 初島森林植物園ネットワーク 後援 国土交通省 大分県日田市

- テーマ 山あい自然・文化の都あり ～地域プロデュースの手法～
- 日時：平成24年3月3日(土) 19:00～21:00
- 場所：日田市大山地区公民館ホール
- 主催：NPO 初島森林植物園ネットワーク

後援：大分県日田市

参加者：約 80 名

大山ダム建設所新屋敷隆所長、五十嵐昇環境課長、松木浩志環境課主幹、住谷昌宏事業調整役
主催者挨拶

NPO初島森林植物園ネットワーク理事長 神川 建彦

講師の高橋さんは、人と人をつなぐ、場所と場所をつなぐツーリズムをされている方です。私どもは1人では何もできませんし、何も始まらない。2人3人となって社会ができますが、2人だけでは関係ができません。それ以上になると仲介役となる第3者が必要となる。商売人はいらんとか、仲介人はいらんとか言う人がいますが、絶対嘘です。そういう仕事を彼はしています。化学反応の触媒みたいな働きをしている。都市や町の高校生を田舎である飯田市の呼んで、若い高校生と先輩の飯田の人たちの交流の場をセットしている。こういう仕事は、一般にボランティアの人が行っていることが多いが、これを若者らしくビジネスとして行っている。

今日のお話を、よその話としてではなく、日田の自分自身の話として聴いていただきたい。



講演

「山あい自然・文化の都あり ～地域プロデュースの手法～」

㈱南信州観光公社 代表取締役社長 高橋 充

飯田市は、中央アルプス・木曽山脈と南アルプス・赤石山脈の間の伊那谷に位置する町である。ほんの1週間前までは、全く気にすることなしに「南アルプス」と言っていた。南アルプスを世界遺産にしようという協議会の会合で、飯田の博物館の学芸員が、「南アルプス」という言葉を使うのはいかなものかと言う発言があった。南アルプスという言葉は国土地理院の地図にも載っていないし、国が決めた名前は「赤石山脈」である。ちなみに「北アルプス」は「飛騨山脈」であり、「中央アルプス」は「木曽山脈」です。

赤石山脈は、土地の名前でなく岩石の名前が付いた山脈である。学会でも通じる名前をなぜ使わないのか。という発言であった。

南アルプスという言葉を使うにしても、赤石山脈のいわれ、価値をわかった上で使うべきではないか。

いろいろな考え、立場の人がいるということです。

私が所属する㈱南信州観光公社とはどんなものかという、

長野県は、岐阜、富山、新潟、群馬、埼玉、山梨、静岡、愛知に接している。南信州は、このうち静岡、愛知に接している。

飯田市の全景 遠くに木曽山脈が見える

名古屋から高速で1時間程度のところにある。



高橋 充 氏



私どもの会社は株式会社なのに公社とついている。それはなぜかというと、地元の自治体が出資しているそれに農協だとかバス会社といったところが出資している。地域振興ということで自治体からも出資してもらっている。ただ、経営自体は補助金といったものはない。独立採算で経営している。公設民営の会社である。

一般には修学旅行、林間学校、自然教育、校外学習といったもので学校で行う旅行的要素を含んだ行事を総称して体験型教育旅行（これは旅行会社用語で）と呼んでいる。

16～17年前に、飯田市の商業観光課の1系の観光係3～4名が担当していた時に、体験教育旅行を呼び込もうとしたのがきっかけである。

通過型の観光地から滞在型拠点型の観光地づくりをめざし、1996年から体験受け入れをはじめた。当初は3校訪れてくれた。利用団体が増加するにつれ、飯田市の窓口だけでは対応できなくなり、また、体験を受け入れる地元の人も毎日対応するとなると困難になってきた。そこで、体験受け入れ先の拡大と事業を継続的に専門性を持って担う組織が必要になってきた。

飯田市周辺の18市町村に声をかけ、最初に賛同してくれた2001年に飯田市をはじめ1市4村および10企業・団体の出資を受けて体験型観光による南信州広域の地域振興をめざす組織として（株）南信州観光公社が設立された。社長は飯田市長で、私が支配人ということで始まった。もっとも正社員は私1人で、他にパートの人が1名いたのみであった。

この指止まれ方式で発足した。その後、3年間かけて18市町村（現在は合併があり14）全てからの出資を受けることとなった。

主な業務は、体験型教育旅行のセールス、受入・コーディネートである。それ以外にも一般旅行者向けの桜・和菓子・トレッキング等に特化した体験型旅行の提案と実施も行っている。また、こういった取り組みを学ぼうとする各地からの視察研修依頼に対しての研修会と相手事情に即した各種体験や料理提供のコーディネートも行っている。

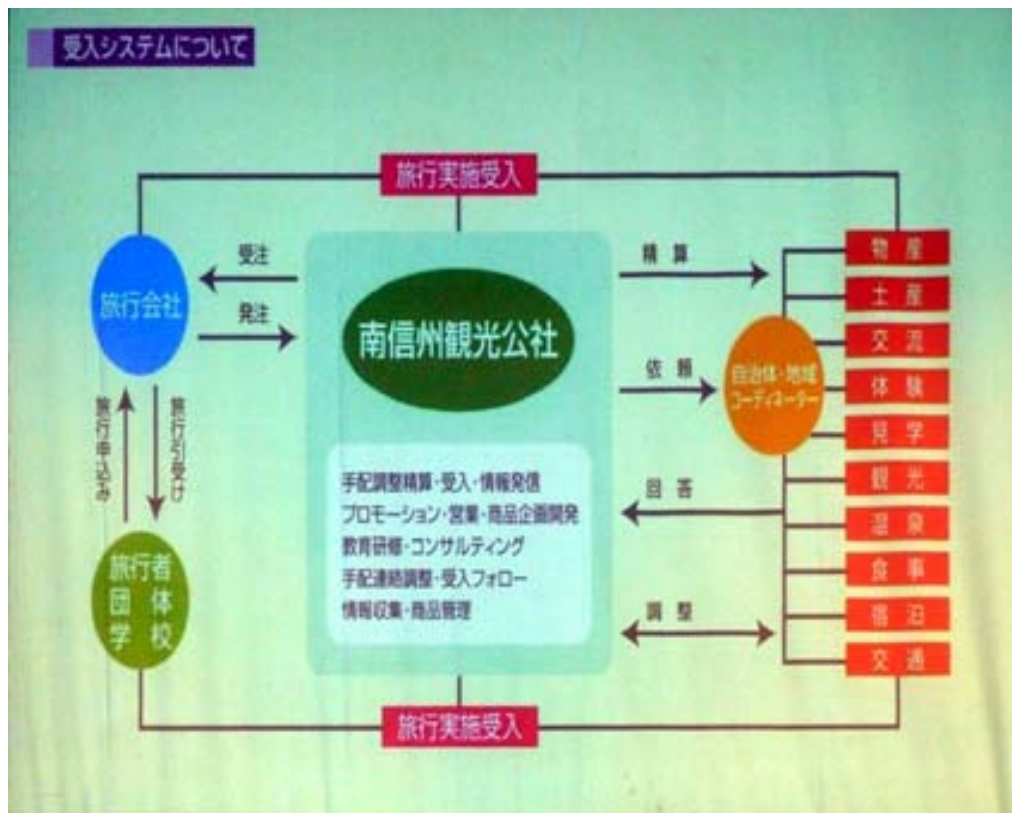
本物をめざした体験をめざしている。今の体験学習は、200人300人を効率的に対応できるようにほとんどお膳立てができていて、少し手を加えれば完成といったものが多い中、飯田市の場合、地域の方がインストラクターあるいは受け入れ先となって、米作り、リンゴ作り、郷土料理といったものを、少人数に分けて、普段やっていることをはじめから体験してもらうプログラムを作っている。

普段やっていることを行うことで余裕を持って受け入れられる。そういうことを、高校生達をはじめで見聞きし、実際にやることによって、そのノウハウを体験できる。

じわじわと感動体験ができる。時間をかけてじっくりと感動得られるという方法が飯田の方法である。

（株）南信州観光公社は旅行社が受けた体験型旅行について受注して地元との仲介を行っている。体験型の旅行について、学校側と直接交渉するには、常駐する人が足りない。

旅行社にとっても、直接、受け入れてくれる農家の人といった人と直接交渉するつても持っていないので、公社が仲立ちをしてそれなりの収入を得ている。（株）南信州観光公社は南信州の内側と外側に窓口を持っている。そういう役割分担をしている。



実際にどんなことをやっているのか。

右の写真は自然の川で5名ずつのグループによる溪流釣りである。

釣りは、父親やおじさんに連れられて、はじめは、手取、足取りで教えてもらって、覚えていった。それを、飯田の自称釣り名人の方々によって、少人数ずつで釣りを体験している。

釣り堀ではなく、実際の河川で行っている。

息子や娘に釣りを教えるのと同じように、高校生達に教えてくださいとお願いしている。



右の写真は、プロの職人の工房で体験しているところである。

草木染めだとか陶芸だとかという伝統工芸は、基本的にはその方の工房に行ってその方に教えてもらっている。

実際には、ハンカチを2枚染めるだけなのだが、工房で染めることにより職人の言葉、仕草、工房の様子そういったものが全て体験の対象となる。
教室で染めたのでは味わえない体験が得られる。



右の写真は少人数での農家民泊である。4名から5名で農家に民泊してもらう。

実は、農家民泊の後、一泊する場合は、飯田の旅館に泊まってもらうことを条件に受け入れている。このことにより、観光振興の一助となっている。

年間 8000 人から 10000 人受け入れている。

信州のそば打ちもともと家で打っていたが、南信州ではあまり有名ではなかった。

しかし、そばそのものは、どの家庭でも打っていたものである。このそば打ちの体験もプログラムの中にある。

このそば打ちの特徴は、よそのそば打ち道場では、まさに、そばの玉まで作っていて後は伸すだけとか、場合によっては、伸すところまで行って、後は切るだけといったところもある。その方が効率も良いし、おいしいそばになるが、私どものそば体験は、そばを粉の段階からはじめる。しかも 5~6 人のグループにすると手を出さないものも出てくることから、2 人 1 組のとして、そば打ち体験を行っている。お互いに協力してそばを作ることとなる。

茹でるのも時間はかかるのだが、1 組毎茹でることにより、自分の打ったそばを食べることができる。ただ、全員茹でるので始めから終わりまで 1 時間以上かかりみんな揃って食べるという訳にはいかない。



南信州はあまり雪の降る地域ではないが、名古屋、浜松、豊橋といったところのお客さんを対象に里山を毎週土曜日、日曜日のいずれかに冬山をスノーシューで歩く体験を開催している。

山歩きは好きだけれど、冬山に入るのはといった、憧れとあきらめとが交錯した思いを持った方が、年に何回も使わない道具を揃えてもという思いに対して、ちょっとした気がかりを取り除くことによって、参加してもらえる。



これは、いろりを使って火をおこす体験をしている。このインストラクターは、人ではなく建物である。もちろん火のおこし方などは指導するが、実際に火がおこるのはいろりであって、煙の抜け方など、新たな発見をしていただいている。高校生がここに 1 軒 4~5 人で泊まることになるが、そこでは、火の番をする人、炊事をする人などの役割分担を体験でき、また、薪でのお風呂といったことも体験できる。昭和 45 年頃までは人が住んでいたが、過疎化となり集団移住して無人となった建物を利用している。この建築は入母屋造りの今では貴重な建物となっている。

こういった受け入れは、事前にどのように受け入れるのかを旅行者、学校に伝えるとともに、受け入れ先にも伝え、こんなはずではなかったということを避けなければならない。これが我々の重要な役目でもある。

ほんものの体験とは何か。継続的に関わるのは何か。というプログラム理念を確立しておく必要がある。

来る側、送る側への受入の理念の浸透（現場でのミスマッチの予防）を図るためには一本化されたコーディネート組織の重要な役



割（内向き・外向きの窓口）を（株）南信州観光公社が担っている。

来る側がモチベーションを持って訪れることができるような事前情報（普通の観光との違いとは？、どんな人が受け入れをしているのか？といった情報）の提供を行い、コーディネート組織の自立（活動と運営）することにより基軸システムを確立している。

対応は、ぶれては相手に不安を持たすこととなる。そのためには、受け入れ側も 1000 人位の方をお願いしているが、窓口は観光公社のみの 1 つとしている。



体験プログラム・農家民泊受け入れ時に、求められることは、

- ・ 変更・緊急時の対処
- ・ 事故・ケガ・病気発生時の対処

等がある。これらは、来る側のみならず、受け入れ側も同様な不安があり、これらの不安を払拭させるための 24 時間連続連絡体制、緊急医療機関情報、事前情報の収集、対応を行う必要がある。

南信州の農家民宿受け入れのきっかけは、千葉県八千代市の中学校が、平成 9 年、五平餅の体験のため 100 人ほどで飯田を訪れた。この時、五平餅を作るだけならば、通常ならば 5～6 人のインストラクターが見本を示して、どうぞというのが普通でしょうが、千代地区という飯田から若干離れたところの地区に 30 人の地元の人が待っていてくれて、100 人に 30 人ものが飯田弁丸出しで、ていねいに説明し教えてくれた。これに、生徒のみならず、引率の先生も喜んでくれた。

来年は 2 時間の体験ではなく、1 日体験をしたいとの申し入れがあった。当時、農家民泊という言葉もなかった時代であった。その調整を、当時旅行社に在席していた私が行いました。そこで、そのことを飯田市の担当課（商業観光課）に相談したところ、おもしろそうですねと話に乗ってきてくれた。学校もはじめて、飯田市もはじめて。旅行社もはじめての修学旅行を行うこととなった。

飯田市の担当の方がいろいろとつてを頼って、農家民泊の受け入れを頼んでくれた。

学校との調整は私旅行社が行った。学校は学校の事情があり、地域は地域の事情がある。それを伝え、双方が納得する方策を調整するのが私の役目であった。

私は平成 12 年に飯田市に移住した。そのころ心決すものがあり、旅行社を退社し新しい職に就こうとして退職のあいさつしたところ、当時の飯田市の担当者から、観光公社設立の話があり誘いがあってこちらに移住した。

平成 12 年には、農家民泊 5 校であったものが、翌年、平成 13 年には農家民宿 20 校にまで増えた。ところが、農家へ農家民泊を頼むのは、作付けの目途がたつ年度が替わってからとなる。わずか 1、2 ヶ月の間に、受け入れを頼まなければならない。1 校 150 人で 4 人ずつ受け入れてもらうとすると、20 校でのべ 800 軒の農家に受け入れてもらわなくてはならなくなった。

これも、一時は絶望的な状態となったが、飯田市（観光課、農政課）の方、平成 12 年に受け入れてもらった農家の紹介、伝手で、16 地区 250 軒の農家の方に受け入れてもらった。いろいろに方に助けてもらった。

受け入れの仕方が普段やっていることそのまま、お客さんという扱いではなく食事の準備から後片付けまで生徒にやらせるというスタイルも受け入れてもらったのだと思う。

また、体験型観光型の手法を用いたツアーも企画している。

例えば、「桜守の旅」というツアーを企画した。

群桜もよいが、一本桜もよい。南信州には樹齢 300 年、500 年といった一本桜が数多くある。標高が 400m から 1000m と多彩なため、3 週間の間どこかが見頃となっている。桜の見頃は短いため、

これは旅行会社にとっては大きな安心材料である。ミステリーツアーとしての企画をしている。
飯田周辺の一本桜の例としては次のようなものがある。



ヤストミザクラ

高さ 20m
枝張り 20m
胸高直径 6m
樹齢 500 年程度
安富という家老が植えたとの伝



クロホネザクラ

樹齢 150 年（記録上明らかなところ）
たぶん 300 年くらい



ササミダイラノサクラ 4/15 ごろ咲く

我々は、この企画ではバスのガイド料として 40 人のバスで旅行社から 10000 円程度のガイド料を受け取っている。

他には、「和菓子探訪の旅」といった企画がある。

飯田城下であった旧飯田市内にはこの店ならこの和菓子という和菓子店が数多くある。また、おいしい清水が湧き、茶の湯の文化に鍛えられ今日までその伝統が続いている。

これらを素材に、ボランティアガイドを和菓子案内人として養成し、飯田城社の遺構やりんご並木の案内を合わせ、歩く旅の趣向に合致させることができ、「町あるき観光」を企画している。7 年ほど前から行っている。年間 7000 人程度の人に参加している。

（２）「大山ダムの森」ボランティア植樹祭

平成 24 年 3 月 4 日（日）森の多様化のモデルとなるような森づくりを目指して植樹祭を実施した。

内 容

雑木山・紅葉山をつくる。堤体を紅葉で修景する。

美しい森、楽しい森、恵み豊かな森、活力のある森、多様な生き物のいる、

理想的水源林をつくる。

面積 1.3Ha 実際植樹した面積 1.2Ha、間隔 3m、1,111 本/Ha ∴1,333 本植樹

樹種 落葉種、紅葉種を中心に 162 種

日田大山の郷土種または、ゆかりのある種

例 フシノハアワブキ 大山町竹の迫産の希少種

メタセコイア 100 万年前の日田層（大山層）から出土

ケンボナシ 地元の神社に巨木有り

チャンチンモドキ 日田の弥生遺跡から多量に出土

＜参考＞植栽樹種 イチョウ、ラクウショウ、メタセコイア、イチイ、カヤ、アカマツ、クロマツ、モミ、イヌマキ、ナギ、スギ（大王杉）、ヒノキ、サワラ、ネズミサシ、アスナロ、ケンボナシ、チャンチンモドキ、トチノキ、ハゼノキ、イロハカエデ、ウリハダカエデ、コハウチワカエデ、メグスリノキ、ハナノキ、ウリカエデ、コミネカエデ、オオモミジ、ミツデカエデ、ヒナウチワカエデ、テツカエデ、ハウチワカエデ、イタヤカエデ、チドリノキ、オオイタヤメイゲツ、マルバカエデ、アサノハカエデ、カジカエデ、コナラ、ミズナラ、ナラガシワ、アベマキ、クヌギ、カシワ、ヤマザクラ、オオヤマザクラ、カスミザクラ、エドヒガン、モミジバフウ、ナンキンハゼ、ハゼノキ、ユリノキ、ヌマミズキ類、ズミ、タマミズキ、ヤマハゼ、ランシンボク、フシノハアワブキ、ヤマガキ、ザイフリボク、カマツカ、カリン、ヤクシマサルスベリ、アカシデ、ヒメシャラ、ミズメ、ホウノキ、シラキ、フクロミモクゲンジ、カンレンボク、ムクロジ、モクゲンジ、カツラ、アオハダ、ウメモドキ、チャンチン、ヤマボウシ、ヤマトアオダモ、アオダモ、ヤチダモ、シオジ、マルバアオダモ、ネコノチチ、アズキナシ、ウラジロノキ、ナツツバキ、リョウブ、ハクウンボク、ハリギリ、ハルニレ、ヤマナシ、シマサルスベリ、イヌシデ、クマシデ、アサダ、ヘラノキ、シナノキ、タムシバ、コシアブラ、タカノツメ、キハダ、コバノチョウセンエノキ、ユクノキ、シナノガキ、フジキ、エゴノキ、ヤマモモ、アカガシ、ウラジログシ、シラカシ、ツクパネガシ、ウバメガシ、ホソバアラカシ、オキナワウラジログシ、スダジイ、コジイ、シリブカガシ、マデバシイ、タブノキ、クスノキ、シロダモ、イヌガシ、ヤブニッケイ、ニッケイ、カゴノキ、ホソバタブ、バリバリノキ、オガタマノキ、カクレミノ、キンモクセイ、ヤブツバキ、サカキ、モッコク、シキミ、モチノキ、シイモチ、ナリヒラモチ、ナナミノキ、ソヨゴ、ユズリハ、バクチノキ、カンザブロウノキ、コバンモチ、コヤスノキなど



良い仕事をし、良い汗をかくと良い顔になる良い例

参加者数 87 名 2 歳～74 歳 福岡県 15 大分県 65（日田市 59 その他 6）東京 1 長野
子供 6 名＋高校生以上 76 名（男 68 名＋女 8 名）



ダム堤体をもみじ山で修景する。



お父さんと一緒に



約 1.3Ha, 1,300 本以上。黙々植える



美味しい昼食、ケンポナシ焼酎も



特殊林産物、シシ汁とシカ飯の握り飯 大好評

IV 水源林保全・再生活動の評価

1 活動の効果

水源地域活性化のための、その基盤である水源林整備の重要性が理解してもらえたと思う。これから、さらに森林の健全性や森林の生物多様性～林産物多様性を高めるような森林の施業法を模索し、試行錯誤し続けたい。特に、木祖村で観た山頂まで植えられたカラマツ林と、日田のスギ林は、基本的に同じ発想の産物である。このような単一樹種の一斉栽培は、これまでの猛反省に立って、改善されねばならないと痛切に思った。

ダム湖畔で移動する汀線に適応する樹種の植栽が、人工湖と森林の接線の景観を連続させるものとして重要であるということに賛同していただき、助言者からも期待する由の講評をいただいた。未知な部分も多いがチャレンジしたい。

具体的成果

調査内容を絞り込み、今回の試行的実施事業や、今後の活性化計画、森林再生計画に直結する物に集中したため、次期に向けたアクションを開始することができた。

基本的な森林立地区分ゾーニングモデルを提案することができた。このまま、現実山林に適応するには困難を伴うが、基本的なモデルとして、地方地域ごとに修正応用していけばいいと思う。人工林の針葉樹（スギ・ヒノキ）と広葉樹の比率についても、地域ごとの指針があってよいと思う

高校生の起用や、小中生の植樹祭参加などは、思い出作りとともに、故郷への愛着を醸成するのに大いに効果があると思われる。

強間伐の実施は、混交林化を促し、景観的にも生態的にも改良されていくものと思われる

植樹祭で、多様な樹種による雑木山～紅葉山づくりを開始できたことは、田来原 100 年 p 森づくり運動を継承する水源地域の森づくり運動の一つのモデルになると思われる。

期待される効果

大山町が行ってきた百年の森づくりなどを発展させ「新しい森づくり運動・新しい日田林業」のモデルを提示し、大山ダムと地元農林水産業との共存共生のモデルを提案できる。

景観的にも生態的にも優れ、一次産業の生産基盤としても充実した水源林モデルを提示し啓蒙することにより、日田市全域に、水源都市、環境都市、森林都市（森と木の文化都市）としての地域づくりが広がり、将来、癒し系観光都市、魅力的定住都市へと成熟していければ幸いである。

2 関係者・参加者の評価や感想

（2）講演会 アンケートの結果

■講演会を何で知りましたか

市役所10、友達9、その他21（主催者4会社12その他5）

・不特定多数の方に周知できなかった。主催者の活動がアピールできなかった。

■出席していただいた理由

講師に興味9、自分自身に必要9、地域活性化に役立つ19、参加要請16、その他1

・参加要請された方も多かったが、興味を持ってもらうため引っ張り出す工夫も必要である。

■講演は参考になりましたか

はい32、いいえ0、どちらでもない2（仕事分野外）、回答なし6

・受身で参加した人たちからも「来てよかった」と言う評価をいただいた。地域を変革していくには、住民の考え方や感じ方を変えることが重要でその意味では効果があったと考えられる。

■地域活性化講演会で希望されるテーマは何ですか

農業9、林業11、商業3、観光20、6次産業7、教育7、環境10、政治4、経済3、ライフスタイル9、その他1、無回答2

・受講者の多くが従来の観光概念を見直したと思う。農林業に特化して活性化策を求める人もいるが、観光や6次産業と言った分野を注目するひとも多くなっていることから、この種の講演会や視察、情報

提供が必要と思えた。

選ばれたテーマについて何かありましたらご記入ください

＜環境に対する意見＞ 梅の里にウメが少ない。脱原発。河川の水量増加

＜ライフスタイルに関する意見＞ 田舎が原点、スローライフ

＜農林業に関する意見＞ 日田地域の発展は林業の発展なくしては考えられない

＜観光に関する意見＞ 新しい旅行業、地域資源見直し

＜経済に関する意見＞ 何をするかではなく、どのように伝えるか。どのように売るか。

＜6次産業に対する意見＞ わが社にとって最も急がれるテーマ

■希望する講師についてなんでも結構ですのでご記入ください

＜希望する講師の先生＞

大神輝博 (株) モンテローザ創業者：大分県出身

小泉武夫 東京農業大学教授

高橋 充 (株) 南信州観光公社 代表取締役社長

■なんでも結構ですのでご記入ください

・行事が重なり過ぎ日時決定は慎重に・周知方法工夫を・地域を元気にするのは待ちの気持ちではない・今欠けている

(2) 植樹祭 アンケートの結果

●参加していただいた理由27名記入 面白そうだったから4、趣旨に賛同したから8、地域活性化に役立つと思ったから4、

知人に誘われたから2、参加要請があったから7、その他 2 (委員会活動。仕事で知った。)

●植えた木についてご意見ご感想があればご記入ください18名記入

ポット苗で植付け安かった、知らない木も有り育つのが楽しみ。どのような森になるか見に来たい。どんな木になるか楽しみ。多様多種で大変良い。いろいろ植えて大変良いが後々名前をぶらさげては。面白い木ばかり。バランスが良いと思った。数年後が楽しみだ。多種多様な樹種があって驚いた、5年後10年後どうなってゆくか大いに楽しみです。落葉樹常緑樹をバランス良くしたらと思う。

いろんな木があり楽しい山になりそうですね。特になし。多様な種が植えられて良かった。

多種多様な木が植え込んであり将来が楽しみ。樹木の種類が一般の人に分かるように表示したらどうか。

参加者数 87 名 2 歳～74 歳 福岡県 15 大分県 65 (日田市 59 その他 6) 東京 1 長野

子供 6 名＋高校生以上 76 名 (男 68 名＋女 8 名)

大山ダムの森植樹祭参加者アンケート 実数 29 昼食会場を分担していた老松生産森林組合のアンケートが行えなかったため少ない。

今回の植樹祭について、みなさんの率直なご意見ご感想を今後の参考にさせていただきたいと思います。ですので、アンケートにご協力をお願いします。

●参加いただいた方の年齢層(該当する項目を○で囲みください) 28

1、10 10 2、20代 1 3、30代 2 4、40代 2 5、50代 7 6、60代以上 6

●参加していただいた理由(該当する項目を○で囲みください) 27

1、面白そうだったから 4 2、趣旨に賛同したから 8

3、地域活性化に役立つと思ったから 4 4、知人に誘われたから 2

5、参加要請があったから 7

6、その他 2 (委員会活動。仕事で知った。)

●植えた木についてご意見ご感想があればご記入ください 18

ポット苗で植付け安かった、知らない木も有り育つのが楽しみ。樹種が多くて良い。どのような森になるか実に来たい。どんな木になるか楽しみ。多様多種で大変良い。宇得やすい大ききでよかった。いろいろ植えて大変良いが後々名前をぶらさげては。面白い木ばかり。バランスが良いと思った。数年後が楽しみだ。多種多様な樹種があって驚いた、5 年後 10 年後どうなってゆくか大いに楽しみです。落葉樹常緑樹をバランス良くしてらと思う。いろんな木があり楽しい山になりそうですね。多様な木があってよかった。特になし。多様な種が植えられて良かった。多種多様な木が植え込んであり将来が楽しみ。樹木の種類が一般の人に分かるように表示したらどうか。

●改善すべき点があればご教示下さい。 9名

特にない。自然体でこのままで良いと思います。特になし。有りません、ご苦労様でした。(①作業者を上になんていただき植えて降りる②掘り上げた石を根本においていただく③藁を用意して根本にかけ乾燥を防ぐ)石が硬いので軟くしてほしい。(別)働かざる者食うべからず。特になし。自分の植えたところが解るようにしたら(座標)。

●昼食など用意しましたが、いかがだったでしょうか。 15

(昼食前に書いてもらったので、回答が少ない。)極めて好評でお代りする者多く、おにぎりはラップに包んで持ち帰る者多し。ケンポナシ酒も好評で一升消費(無論ドライバーは除く)

ごちそうになります・大変うれしい。大変おいしかった、珍しかった。美味しかったです。とてもおいしかったです。大変ありがたい。有り難いです、ありがたい。美味しかった。有難うございます。うれしい。汗をかいた後なのでとても美味しくいただいています。美味しかったです。有難うございました。

●今後も、大山ダム水源地域を中心に森づくり活動を継続する予定ですが、参加を希望しますか。 27

1、希望する 25

2、希望しない 1

遠隔地なので日程が合いにくい 1

●大山ダムの森は仮称ですので、何か良い愛称があればご提案ください 3

その内考えます。急なので後で考えてみたい。おおきなやまのだむ？
大山けんぼの森。

●その他なんでも結構ですのでご記入ください 7名

実のなる木を沢山。この運動を長く続けると良い。係の方大変お疲れさまでした。

今後もこの様な取り組みを盛んに行ってください。良い仕事をさせていただきました。

① 一般の人に PR する方法を検討すべき②一同に集まらなくてもダムを実にきた人先着〇〇名など。とても良い経験ができました、また参加したいです。

今回の事業で、上下流がそれぞれの地域エゴを脱却し、共通の目標である水源機能の高い深い森、彩り豊かな美しい森、知的好奇心を掻き立てる面白い森を、守り復元し創りだそうとするのであれば、互いの理解と協力のもと共に森づくりに汗を流せるということを確認した。もちろん前半の前提条件が問題であるが・・・

<西日本新聞記事>

平成24年3月6日(火) 朝刊 西日本新聞16版22面



森と
△ともに

大山、松原ダム 筑後川上流で植樹祭

筑後川の上流に森を造るため、日田市の大山ダムと松原ダムの間で、6日、約100人が参加し「植樹祭」が行われた。市内や下流から約100人が参加し「植樹祭」が行われた。市内や下流から約100人が参加し「植樹祭」が行われた。

広葉樹に 森豊かに

大山ダムは、ダム建設の川原約1.2キロに広がる。川原約1.2キロに広がる。川原約1.2キロに広がる。

V 長期的水源林保全再生・水源地域活性化計画

いわゆる水源地域活性化一般については割愛する。

1 水源林保全・再生計画

スギ・ヒノキ人工林が明らかに過剰となっていること、それにともなうスギ・ヒノキ人工林自体の衰退、林業生産の困難性の増大、社会環境自然環境の激変などを考えれば、抜本的な林業の構造（森林政策）改革が必要となっている。農業で行われた、減反休耕や、転作が考えられてもよい段階にいたっている。それには行政の強い指導と、多様化に伴う不利益の補償が必要にもなっている。お金の無い時代ではあるが、できることからモデル的な実験林でもよいからスタートしておく必要がある。

（１）立地区分・ゾーニング

ゾーニング例 1 傾斜角基準によるもの（20110830、森林計画会議資料を添削 神川）

これは、自然林は残す、人工林で経営対象にならないものは自然林化するという提案である。次に、集約的なスギ用材林施業をおこなうスギ・ヒノキ人工林以外は出来るだけ、混交化、多様化することである。施業対象と施業対象外との境界は地形的制約から 35° を基準にしたらどうかという提案である。

先ず、㊦自然公園法で国立国定都道府県立公園指定地域、㊦自然環境保全法で自然環境保全地域指定地域㊦鳥獣保護及び狩猟に関する法律の保護区などで施業の制限を受ける地域を除外する。市町村独自にも、公園指定地域、自然環境保全地域、保護区、および文化財・天然記念物・名水等に伴う施業制限区域を設定する。保安林制度、国有林のゾーニングとも整合させる。㊦除地、施業困難地（岩石地、瘠悪地、風衝地、沼沢地、災害履歴地）を除く。㊦保護樹帯（尾根筋・谷筋）を設定。樹帯の幅は流域の規模～露出度に応じて、広狭を決定する。（30mから～摩（なびき）の 800 まで）㊦傾斜角により立地区分する。㊦既設計画林道網などで調整。㊦最後に狭小な生産エリア部分の保全エリアへの統合などで立地・機能区分完了を完了する。

広葉樹天然生林施業はバイマス生産林業に含める。広葉樹長伐木大径材生産林業は一般スギ・ヒノキの長伐期大径材生産林業と区分しない。短伐期長伐期的も区分しない。気象害の少ない場合、施業の集約度が高いばあい、通直性の高い樹種・品種などでは 35° 基準を 40° まで上げてよい。（別紙ゾーニング表例参照）

（２）今後の取り組み

初島森林植物園ネットワークが今後取り組むべき課題は多いが、具体的には以下のことから、継続して行きたい。

- 団地化による除間伐の推進運動
- ダム湖畔林の植栽（路傍植物園化計画）
- ダム湖汀線付近の修景植栽
- 田来原残土処理跡地の植栽計画
- 導入候補広葉樹種の調査、クローン化
- 鳥類保全林の整備

ゾーニング例1 傾斜角基準によるもの。

(20110830、森林計画会議資料を添削) 神川

先ず、㊦自然公園法で国立国定都道府県立公園指定地域、㊦自然環境保全法で自然環境保全地域指定地域㊦鳥獣保護及び狩猟に関する法律の保護区などで施業の制限を受ける地域を除外する。市町村独自にも、公園指定地域、自然環境保全地域、保護区、および文化財・天然記念物・名水等に伴う施業制限区域を設定する。保安林制度、国有林のゾーニングとも整合させる。㊦除地、施業困難地（岩石地、瘠悪地、風衝地、沼沢地、災害履歴地）を除く。㊦保護樹帯（尾根筋・谷筋）を設定。樹帯の幅は流域の規模～露出度に応じて、広狭を決定。（30m～靡（なびき））㊦傾斜角により立地区分する。㊦既設計画林道網などで調整。㊦最後に狭小な生産エリア部分の保全エリアへの統合などで立地・機能区分完了を完了する。広葉樹天然生林施業はバイマス生産林業に含める。広葉樹長割木大径材生産林業は一般スギ・ヒノキの長伐期大径材生産林業と区分しない。短伐期長伐期的も区分しない。施業の集約度が高いばあい、通直性の高い樹種・品種などでは35°基準を40°まで上げてよい。

傾 斜 角			略 号	施 業 法 な ど		林 地 地 目	作 業 ・ 伐採種	市民開放	旧 新 補 助 制 度	
基本は 0～15 林野外			O	管理施設化		管理除地				
0～15	施 業 対 象	循 環 林	Ao	Aw	用材林施業	用材生産林	間・皆（択）		植栽、保育、転換＋早生加算	
				Ab	バイオマス生産高林作業	バイオマス生産林	皆		植栽、保育、転換＋早生加算	
				Nc	バイオマス生産低林作業	バイオマス生産林（南九州）	皆			
				Aag	特用林産林施業	特用林産林	皆（択）		植栽、保育	
	施 業 対 象 外	非 循 環 林	A'	Ap	造園・修景・景観施工	保健休養林（園地・緑地・公園）化	（景観構築）		植・保、景観施業	
				Al	修景・景観施業	景観林化施業林→景観林	（強間伐・導植）		植・保、景観施業	
				As	試験研究開発	試験林、見本林、学術参考林など	（調査・研究）		試験研究林化	
				Ab	植物園＝遺伝子保存林施業	生物情報濃縮林	（収集・保存）		生物多様性増進	
			AN1	AN	改植・導入・放棄	自然林化施業林→自然林	→伐らずの森		自然林化（禁伐化）	
			N	No	厳正保護	自然林	伐らずの森		禁伐	
				Ne	厳正～現状維持的保護	自然生態系維持林	制御伐		生態系恒続	
				WS	厳正保護・野生生物聖域化	野生生物聖域・神域	山神域・入らずの森	禁	禁伐・禁入山	
15～30 35?	対 象	循 環 林	Ao	Aw	用材林施業	用材生産林	間・皆（択）		植栽、保育、転換＋早生加算	
				Aag	特用林産林施業	特用林産林	皆（択）		植栽、保育	
	施 業 対 象 外	非 循 環 林	A'	Ap	造園・修景・景観施工	保健休養林（園地・緑地・公園）化	（景観構築）		景観施業	
				Al	修景・景観施業	景観林化施業林→景観林	（強間伐・導植）		景観施業	
				As	試験研究開発	試験林、見本林、学術参考林など	（調査・研究）		試験研究林化	
				Ab	植物園＝遺伝子保存林施業	生物情報濃縮林	（収集・保存）		生物多様性増進	
			AN1	AN	改植・導入・放棄	自然林化施業林→自然林	→伐らずの森		自然林化（禁伐化）	
			N	No	厳正保護	自然林	伐らずの森		禁伐	
				Ne	厳正～現状維持的保護	自然生態系維持復元	制御伐		生態系恒続	
				WS	厳正保護・野生生物聖域化	野生生物聖域・神域	山神域・入らずの森	禁	禁伐・禁入山	
	30～ 35?	対 象	非 循 環 林	AN2	Ps	永久間・択伐林施業	針広混交巨樹林	択伐の森		混交林化
		Nz			主林木淘汰・導植（放置）	自然林化施業林→自然林	→伐らずの森		自然林化（禁伐化）	
施 業 対 象 外		N		No	厳正保護	自然林	伐らずの森		禁伐	
				Ne	厳正～現状維持的保護	自然生態系維持林	制御伐		生態系恒続	
				WS	厳正保護・野生生物聖域化	野生生物聖域・神域	山神域・入らずの森	禁	禁伐・禁入山	
45～			AN3	Nz	主林木淘汰・放置（導植）	自然林化施業林→自然林	→伐らずの森		自然林化（禁伐化）	
			N	No	厳正保護	自然林	伐らずの森		禁伐	
		Ne		厳正～現状維持的保護	自然生態系維持林	制御伐		生態系航続		
		WS		厳正保護・野生生物聖域化	野生生物聖域・神域	山神域・入らずの森	禁	禁伐・禁入山		



土捨場跡地（約 10Ha）の扱いが喫緊のテーマである。

2 水源地域の活性化計画

（１）関連諸計画との連動

森づくりだけでも、大山ダム水源地域一帯には、田来原 100 年の森、田来原ひとやま丸ごとガーデニング、中津江には柿の谷協定の森、200 海里的森、トラストの森など様々な森づくり運動が展開されている。活性化構想としては大山ダム水源地域活性化ビジョンがあり、その推進委員会が発足し活動を開始している。また、最上流域である前津江町の椿ヶ鼻や釈迦岳御前岳の脊梁を取り込んだ、水源地域観光開発計画が策定中である。それらの関連する運動をどう連携させるか、誰(何処)が主体になるかという大きな課題も横たわっている。また、あらゆる計画には、土地（森林）所有者の同意が必須であり、活動が継続される可能性なども慎重にモニタリングする必要がある。

（公共施設の有効利用）

大山ダムインフォメーションセンターは、水源地域観光案内の拠点として、各種観察会、各種ボランティア作業体験の拠点として利用する。ダム諸施設（堤体・隧道）の利用も考える。

○ 参考文献 -----

御前・釈迦の自然 郷土日田の自然調査会

森林地帯区分調査報告書「今後における造林対策」初島住彦 熊本県林務部 S460

2012 日田市教委

天然記念物「小野川の阿蘇 4 火砕流堆積物及び埋没樹木群保存管理・活用構想（案）」